

・修学旅行を終えて

2 年生の皆さんは、中学校 3 年時はコロナ禍の中で、中学校での修学旅行に行っていない人が多かったのではないのでしょうか。加茂高校でも昨年度までは、修学旅行が実施できなかったり、旅行先や日程を変更・短縮しての実施であったりして、今年度、ようやく通常の修学旅行へ行くことができました。中学校での修学旅行がなかったこともあるのでしょうか、皆さんの表情がいつも以上に明るく、旅行先での活動を楽しんでいる様子がありました。

加茂高校の修学旅行の目的として、平和教育、体験学習、文化体験などがあります。そこで、長崎を中心とした北九州方面が計画されました。長崎は繰り返してはいけない被爆体験を乗り越えてきた町であり、江戸時代には、中国やオランダなどの外国との交易の窓口であり、隠れキリシタンの信仰、江戸時代末～明治初期には近代日本の発展の礎となった場所でもあります。これらにかかわる世界遺産に指定されている施設等が各地にあり、歴史・文化を学ぶことができました。

長崎原爆資料館での見学と小峰さんの被爆体験講話では、被爆による生命や健康への被害だけでなく、その後の被爆者に対する差別・いじめの経験をお聞きし、それぞれの人が考えさせられました。被爆された語り部の方も高齢となり、少なくなっているため、講話を聴くことができる貴重な機会でした。



長崎市内研修・ハウステンボスでは、1 日歩き回って靴ずれした人が多かったようです。平和公園・原爆落下中心地からスタートして、原爆関係の施設の見学、中華街での食事、大浦天主堂、グラバー園など多様な分野の見学地がまとまっていました。ペーロン体験ではクラスごとに、息の合った櫂の動きで見る見るうちにボートが進んでいく様は、加茂高生の協調性の高さを感じました。その後の九十九島遊覧、軍艦島上陸とクラスによって違いましたが、普段海と接することがないためか、ペーロンや遊覧船と海の体験が重なりましたが、満喫することができていたようです。多くの土産物をもって帰路につきましたが、一番の土産は君たちが長崎で見聞きして体験したことです。この修学旅行で知ったことを忘れずに、平和や異文化について考えていって欲しいと思います。

